

■第12回 通常総会のお知らせ

平成18年5月29日(月)に、第12回通常総会が開催されます。当日は、総会に引き続き、記念講演、交流会を行います。今年、評議員・理事の改選に伴う、会長、副会長、専務理事、監事、及び、各委員会委員長の新任報告もございますので、是非、ご出席ください。詳しい案内は、後日、Fネットにてお知らせいたします。

記

1. 日 時：平成18年5月29日(月) 16時30分～20時45分

- 1) 総 会 16時30分～17時50分
- 2) 記念講演会 18時00分～19時00分
- 3) 交流会 19時20分～20時40分

2. 場 所：(株)カッシーナ・イクスシー SPAZIO
渋谷区恵比寿南2-20-7 CIXビル
TEL03-5725-4240



■ IPEC21 は今年で6回目を迎え、インテリアのプロフェッショナルと企業が協力し未来を切り開く交流の場として、最大級のイベントとなってまいりました。

IPEC21-2006のメインテーマは昨年に引き続き「ひと 環境 デザイン」ですが、今年新たに『彩』をキーワードとして加え、内容の充実をはかりたいと思います。

IPEC21はインテリアの総合展示会として毎年開催してきましたが、今年から日本インテリアファブリックス協会主催のJAPANTEXとの同時開催としました。従来のプロの来場ばかりではなく、クライアントおよび一般来場者の大幅な増加が期待され、同時開催により会期は1日増え、

11月22日(水)から25日(土)までの4日間となります。会期中、同会場にて“すまい・建築・都市の環境展 ecobuild (エコビルド) 2006”が同時開催され、さらに、東ホールでは東京国際家具見本市も同時開催され、トータルに建築・インテリア情報を受発信することが出来ます。

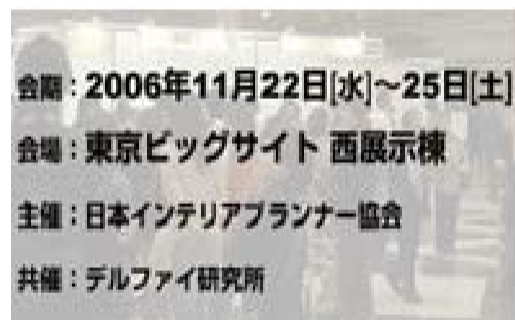
《 JAPANTEX との同時開催によるメリットは 》

1) 設計業界、ファブリックス業界、家具業界及び各種クリエイターが一堂に集まることによりインテリア業界の活性化を図ります。

- 2) 来場者にとっては、一度にインテリアの全体像が見え、展示会やセミナーに参加し、有効な時間を過ごすことが出来ます。
- 3) インテリアのプロの来場のみではなく、広報の強化によりインテリアに関心の高い一般の来場者の大幅な増加が期待でき新しい発見が出来ます。
- 4) JAPANTEX との共同企画により広範囲の提案、展示、セミナーが実現します。

IPEC21 実行委員会は、JAPANTEX とともに新たな出発を致します。昨年に引き続き、デザイナーズ・ショーケースも拡大して開催し、また、新たな企画も練っています。

IPEC21 実行委員会委員長 中川 誠一



■オーデリック新製品発表会のご案内

このたび、新カタログ「LIGHTING 2006 - 2007」の発刊を機に、弊社の新製品をご紹介させていただく「NEW LIGHTING FAIR 2006」を開催することとなりました。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

開催日

平成17年6月6日(火)～6月8日(木)
午前10時00分～午後5時00分(最終日は午後4時30分まで)

セミナー同時開催

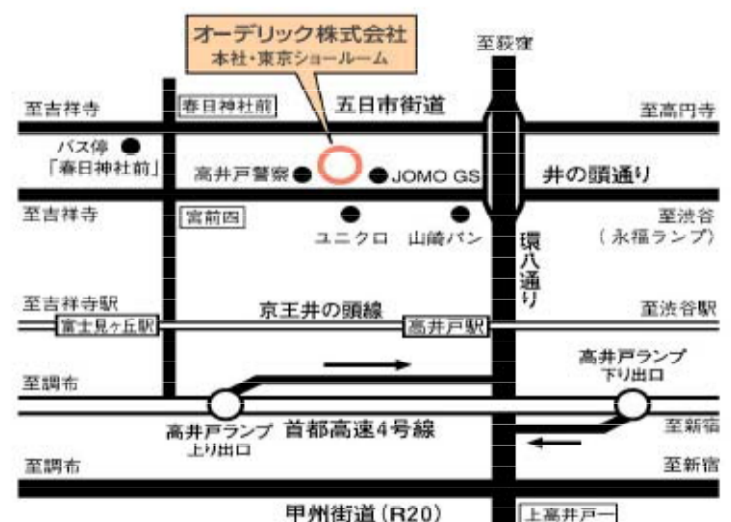
若林秀和氏 「住まいの大規模な改修の事例から」
渡邊裕子氏 「お客様の心をつかむインテリア・コーディネート」
成美淳子氏 「格好良く、キレイに魅せる簡単ポイントは清潔感！」
詳しいお問い合わせ及びご案内招待状希望の方は下記まで連絡をお願いします。(ご招待状がない場合は、ご入場をお断りさせていただく事もございますので、是非、事前にお取り寄せをお願いします。)

オーデリック株式会社 特販第1営業部 岩谷宏道
TEL 03-0002-1244
FAX 03-3332-3109
E-mail hiwaya@odelic.co.jp

東京会場

オーデリック株式会社 本社東京ショールーム
(杉並区宮前1-17-5)

JR荻窪駅及び井の頭線高井戸駅から送迎バスを運行



■ J I P A T見学会

「三井ガーデンホテル・リコー i・salon」

今回の見学会は銀座に誕生した新たなランドマーク「三井ガーデンホテル銀座」と「株式会社リコー」の本社ショールーム「i・salon」。

この建物は、1F・2Fがリコーショールーム、3～15Fがリコー本社、16～25Fが三井ガーデンホテルといった複合ビルである。

見学会参加者89名を5チームに分け見学会が始まった。まずは1Fのシックでこじんまりとしたエントランスから16Fのロビーへ移動。銀座や汐留界隈を一望できるロビーは、ゆったりとした空間に宿泊客が様々なつろぎ方が出来るよう多様な家具が配置されている。ロビーを抜け、まずはエグゼクティブフロアへ。エグゼクティブルームから始まり、その後ツイン・ダブル・シングルと見学が続いた。さて、ダイジェストでお送りした客室見学を終えて、リコー本社ショールームへ。ガラス張りの1Fは新しく変えた「RICOH」のロゴを配した曲面パネルと、クイズタイムショック（ふ、古い）の時計(?)を思わせるシンボリックなメビウスの輪（液晶が組み込まれ、様々な情報がアナウンスされる）が目目を引く。2Fにはセミナールームとコンセプトシアター、複合機など最先端技術の展示場（ソリューションギャラリー）、プレゼンルームが広がる。各自、セミナーまでの時間を見学に費やす。

セミナーでは「三井ガーデンホテル銀座」を手がけた松

田平田設計/渡辺氏より説明。施主からの「三井ガーデンホテルは個性を主張しないホテルが多いが、銀座はシンボリックに」且つ「ホテルに手馴れたデザイナーより新鮮味を持ったデザイナーに」という要請に、かつて仕事をしたことのあるイタリアのピエロ・リッソーニ氏に白羽の矢を立てた。説明会はリッソーニ氏の初期提案（一例：青竹を素材とする）から、時系列で現在のデザインに至るまでの流れで説明があり、参加者には好評であったようだ。

デザインが主張しすぎない「サイレントクオリティ」の考え方、アースカラーの採用など、素人の筆者からは「イタリアンテイストとはこういったものではないか」といった先入観をいい意味で裏切られた。

また、実際に宿泊した正会員が渡辺氏に質問するディスカッションタイムもあった。やはり、これからも増えるであろう海外デザイナーとのコラボレーションやコミュニケーションを如何に図るかが、関心の中心であった。中には「海外デザイナーよりも自分（渡辺氏）が勝っていると思う点は？」などという、ちょっと意地悪な質問もあり、渡辺氏の苦笑、場内の爆笑を交え、和やかな雰囲気の中、説明会も無事終了、1日の行程を終えた。これからも様々な見学会に参加していきたい。

見学譚 法人会員(株)ホウトク

営業統括課 小川



1階エントランス



エグゼクティブルーム



設計 渡辺氏の説明



25階エグゼクティブ EV ホール

■ 途中下車

三井不動産が、目黒駅前に建築中の「パークタワー目黒」を購入したいので、モデルルームを見て欲しいとの依頼があった。目黒という立地条件に見合う建物と云うことで三井不動産の力の入れようも並ではないようだ。目黒の未来を象徴するシンボルにするため、ファースドをいかにするか、商業施設ではなくホテルでも無く、300㎡の公開空き地の他3mの歩道を含むアニメティスペースが設けられる。そのことを含めデザインの追求が究極の目標になったようだ。通常のデザイン設計の枠を超えた、創造と感性が求められた。そこで実現したのが東京国際空港第二ターミナルビルで注目を集めた照明デザイナー内原智史と松田平田設計の中園正樹という究極のコラボレーションである。

またエントランスやラウンジなど居住者専用空間は世界を代表する800ものホテルを手がけたハーシュ・ベトナーアソシエイツのマイケル・ベトナー氏に依頼。彼は「理想のアーバンライフは、極上のリクラゼーションがあつてこそ成り立つ」との理念の持ち主である。19年9月の竣工がまたれる。



マイケル・ベトナーデザイン

照明 内原 智史



平成19年9月竣工
高さ 115m

■知ってて知らない道具

いつも家具職人と仕事をしていて、大工さんとはあまりおつきあいが無い。今回久しぶりにお願いをして、昔の大工さんとはかなり違うことを痛感し驚くと同時に落胆をした。釘を打つにもコンプレッサー付きのハンマーで、ネジを締めるにも電動ドリルである。仕事は速いが雑になる。簡単にネジをもむことができるので、間違えとすぐに抜き別の位置に締め直すため仕事が汚い。穴埋めは私の仕事になる。大工さんにもよるだろうが腕が落ちたことは否めない。私の家はおじさんが大工だったので見よう見まねで高校生とき、自分たちが住む家を建てたことがある。今のように建築基準法もなく簡単に建てられたことを覚えている。山から木を切り出し枝を払い、節があると手斧で落として柱にしたり梁に使ったりした。また、わざと手斧の傷を付けて飾りに見えるようにしていた、調べると鉦栗とか、ちょうなめけずりと云うようです。現在はそのような傷をつける電動工具も出ていますが、できる大工さんが少なくなったように思えます。具体的なチョウナの形や使い方は、中世の絵巻物にみることができます。大勢の職人がヨコオノ形のチョウナ、ヤリカンナで大きな板をけずっています。大

木を打ち割り、これをチョウナではつり、ヤリカンナで仕上げていました。おもしろいのは、チョウナもヤリカンナも床面に座り込んで仕事をしている点です。現在より、時間がゆっくり流れていないと、できない仕事です。日本のチョウナは、湾曲した木の柄に鉄の刃が取り付けられています。柄はエンジュが多かったようです。チョウナを使う行為は、削るというよりはつる(斫る)という。チョウナを振り上げて足元に振り降ろす。熟練しないと間違えて足を削りかねない作業です。この作業を繰り返して、丸太をはつって角材にしたり、原木の一部をはつりとりたりします。熟練した技により、はつり面には美しい波模様をみせることもできます。新始めは建物をつくるときに行なう儀式の一つです。古来、日本人は木を切り倒し家を建てることは、精霊を汚し大地を騒がすことと考えたようです。自然への恐れは神を祭り、怒りを鎮め、加護を頼む儀式につながったのでしょう。建築大辞典には、「建築儀礼の一、工匠が木工事を始める際に行われるもの・司祭は工匠が鋸の儀、墨矩の儀、墨打ちの儀、木返し、後に初めて新打ちの儀が行われる・新打は材木の中央・元・末の3か所

になされる・この後に清飽の儀が行われて終る・平安時代に始まりといわれている。木造り始めともいう。①木工匠の間で行われる年中行事の一、新年の仕事始めの儀式として、主として陰暦正月五日に行われてきた②造船儀礼の一、建造を開始するに先立って行う儀式。」とあります。いずれにしても、鉄のチョウナだけでも2000年近く使われてきました。日本のチョウナという道具は儀式に残り、実用の世界から消えようとしています。



■ 町名由来板 北の丸篇

竹橋の近く国立近代美術館の前に今回の地名由来板がある。北の丸公園として都民の散策の地として、情緒豊かにさせてくれる場所である。九段上から田安門の高麗門(江戸城は冠木門という)をくぐり直角に配置された櫓門を抜けると武道館が見えてくる。この門の配置をますがた(枅形)と云う。ここから竹橋通りに抜ける小道は緑豊かで聞いた事の有る樹木をみて嗚呼これがコブシかとかこれがユズリハなのかと樹木を見て歩くのも楽しめる。この場所に春日の局の屋敷があったそうで三代将軍家光の乳母と云うのは誰でも知っていますが、明知光秀の家臣齋藤利三の娘で美濃の生まれであるそうで、齋藤道三の結縁のようです。現在文京区に有る春日町は局が将軍から拝領して下男

30人ほどを住ませた場所から名付けられた。この家光時代までは江戸は寂れた町であったようで寛永12年(1635)に参勤交代の制度ををつくり全国260の大名に一年おきに江戸にすむよう強制し、諸藩の屋敷が立ち並んだ。がまだ整備までは至らなかった。明暦3年(1657)明暦の大火、俗に云う振り袖火事である。これにより文京区、中央区、千代田区、新宿区、港区に至る大火災で天守閣までも焼けてしまいそれ以降天守閣は再建されませんでした。そこで城内に空き地をつくるため、四代家綱の弟綱重、綱吉、そして御三家(尾張、紀伊、水戸)以外の諸大名の屋敷は全て城外に移されてしまいます。江戸中期になるとこの御三家が、将軍家の一族で田安・清水・一橋の三家に代ってくる。この新御三家の田安家、清水家がこの場所に屋敷を屋えていて、現在田安門、清水門として残っております。



江戸時代のはじめ、このあたりは関東總奉行内藤清成らの屋敷となり、代官町と呼ばれるようになりました。その後、三代将軍家光の弟、駿河府中藩主徳川忠長や春日局、家光の次男松平長松(のちの甲斐甲府藩主徳川綱重)などの屋敷となりました。さらに享保十六年(1731)に八代将軍吉宗の次男徳川宗武(御三卿田安家)、宝暦八年(1758)には九代将軍家重の次男徳川重好(御三卿清水家)がそれぞれ上屋敷を与えられています。安政三年(1856)には、この絵図にも見られるように田安家・清水家上屋敷のほかには御蔵地、桶溜御用地、馬場などがありました。明治維新後、田安家・清水家の上屋敷は一時御用邸となり、その後は近衛歩兵営用地となりました。近衛歩兵営では明治十一年(1878)、日本初の兵士反乱事件「竹橋事件」が起きています。明治八年(1875)、ここは東代官町、西代官町となりました。そして明治十二年(1879)、二つの町が合併して新たに代官町と改称しました。第二次世界大戦後は、森林公園として整備が進められ、昭和四十二年(1967)、住居表示の実施により北の丸公園と改められました。名称はかつての江戸城北の丸にあたることに由来します。公園は、昭和天皇の還暦を記念して昭和四十四年(1969)に開園し、園内には日本武道館や科学技術館、国立公文書館、国立近代美術館などがあります。また石垣には国指定天然記念物のヒカリゴケ生育地もあり、都心のオアシスとして親しまれています。



■入退会者の報告

■入会

- 正会員 金杉哲男(再登録) 窪田 緑
- 一般会員 昌子 成彦
- 法人会員 山王静岡支店(株) リソースインターナショナル KINNASAND JAPAN(株)(所属会社変更)

■退会

- 正会員 片山 輝 長谷川孝之 岩崎治保 大沢幸一(以下4名 金杉哲男、杉山光春、松本早苗、若林 衛(住所不明につき退会扱い))
- 法人会員 TANT(株)(所属会社変更) (株)コスモトレンド

■ 編集後記

4月24日に船橋の、元屋内スキー場「ザウス」の跡地にオープンしたIKEAを取材しようと出かけたが許可が出なかった。一応取材の意向を伝えたので次の号では御案内できると思いますが、今まで日本にはないシステムなので、我々プロにとっては面白いショップになりそうです。

情報委員会 編集長 井上 常雄